

# 玉江地区にまつわるストーリー

## 権現様と天狗拍子

その昔、玉江浦の漁師が漁から帰る途中、陸の方から美しい囃子の音が聞こえてきました。近づいてみると1艘の舟があり、そこから聞こえるものでした。もっと近づいて確かめようにも夕暮れだったので、イカの墨を目印に付けておきました。翌朝その舟を探してみると、1人の老人がほほえんで舟の上に立っていて、「この舞や囃子をよく覚えて、不漁のときに奏楽すれば、きっと大漁になる」と告げて姿を消しました。これは神のお告げに違いないと、それ以後、玉江浦の者は大漁祈願の祭りには必ずその舞を奉納しました。すると年々漁が多く、不漁の年でもこれを奉納すると必ず大漁があり、浦は栄えたと言います。

この舞は「天狗拍子」と呼ばれ、権現様（玉江神社）の秋の大祭に大漁祈願の踊りとして奉納されます。踊りは「天狗の舞」と「恵美須舞・大黒舞」の2部分からなっていて、天狗の舞は紋付・袴にたすきを掛けた男女8名ずつ16名が2列になって踊り、恵美須舞・大黒舞は装束・烏帽子をつけた2人の踊り子がそれぞれ恵美須と大黒を演じて踊ります。いずれも小学6年生の子どもたちによって演じられ、お年寄りが太鼓と囃子をつけます。玉江神社と恵比須神社、玉江浦の漁協前の広場と順に踊ります。

権現様は陸地にある玉江と海沿いの玉江浦の両地区でお世話をしている神社で、以前は大祭のときには玉江からも鶏鬮楽という踊りを奉納していました。平成17年（2005）を最後に鶏鬮楽の奉納は途絶えましたが、現在も玉江の人々は権現様のお世話を続けています。



天狗の舞



恵美須舞・大黒舞

## オミセンサマと海難防止のまじない

オミセンサマ（倉江神社）のお社の中の壁には「傘を逆さに描いた絵」がいくつも貼られています。これは地元で伝わる海難事故防止と酔い防止のおまじないで、これから漁師になって舟に乗り始める玉江浦の若者が祈願のために絵を描いて奉納していました。

逆さの傘の絵を描く由来は不明ですが、オミセンサマだけでなく玉江の道祖神社にも同様の絵が奉納されていました。昔はお社の壁一面に絵が貼られていたようですが、火事でお社ごと焼失してしまい、現在残っている絵は再建された後に貼られたものです。



逆さの傘の絵

## 絶滅危惧種・鹿の子百合

オミセンサマ（倉江神社）の周辺の斜面には、7月中旬から8月にかけて花卉に赤い斑点（鹿の子模様）のついたカノコユリの花が咲きます。カノコユリは九州（福岡県・長崎県・鹿児島県）と四国（徳島県・高知県）のごく限られた地域のみで自生する希少な植物で、絶滅危惧種に指定されています。少なくとも100年以上前からこの地に生えているようですが、なぜかここだけにしか生えておらず、誰かが植えたものかそれとも元々この地で自生していた固有種なのかは不明です。中には花卉が白い変種も存在しています。昔から周辺の住民に愛され、見守られてきた大切な花です。



カノコユリ

## 玉江浦の延縄漁

玉江浦は、昔から漁業が大変盛んところで、遠方に出漁し、いろいろな漁の方法で魚を獲っていました。中でも延縄（はえなわ）と呼ばれる釣り漁の一種が盛んに行われていました。延縄は、幹になる1本の長い縄に、適当な間隔を開けて枝系を取りつけ、その1本1本に釣り針を結びつけたもので、餌を付けたたくさんの釣り針を、同時に水中に沈め、広い範囲の魚を釣ることができるのが特徴です。

釣る魚の種類によって、アマダイ（甘鯛）ならば「アマ縄」、フク（河豚）ならば「フク縄」などと呼ばれます。昭和45年（1970）ごろには、このアマ縄漁に携わる大船が、玉江浦だけで約80艘あったそうです。アマ延縄漁が盛んになる以前の玉江浦では、フカ（サメ）をとるフカ縄漁が大変に盛んに行われていました。



縄鉢  
延縄を入れる鉢。フチの部分に針を引っかける。昔はワラを巻き固めたもの（ホテ）をフチに巻いて針をかけていた。



ワラで作ったホテ

## 名誉市民 松林桂月

日本画家・松林桂月は玉江の出身です。白水小学校を卒業した後、16才で明木村の役場に就職しましたが、同村出身の貴族院議員 瀧口吉良（たきぐちよしなが）の援助を受けて上京、19才で日本画家 野口幽谷（ゆうこく）の弟子になりました。漢学の素養を活かした個性的な画風で、大正・昭和の日本画、特に南画の分野で活躍しました。戦後も南画界の重鎮としてだけでなく、日本画界の代表的な画家として活躍し、昭和33年（1958）には文化勲章を受章しました。

萩市内の諸事業に多額の私財を投じたほか、母校の白水小学校に講堂建設費や作品などを寄付し、昭和36年（1961）萩市の名誉市民に推挙されました。

生家の付近には、後に画伯の憩いの家として桂月庵と呼ばれる建物が建てられています。また、母校の白水小学校には松林桂月ゆかりの品が数多く残されています。



松林桂月誕生地（桂月庵）  
※現在は私有地のため、一般公開はしていません。



松林桂月胸像

## 玉江の暮らしと文化

### 観音院・観音堂

玉江浦の岬の中腹にある、臨済宗建仁寺派のお寺です。本堂の隣に観音堂が建っています。本尊の十一面観音は、昔、玉江浦の漁師さんが海から引き上げたと伝えられています。  
住所：萩市大字山田玉江浦2区の2-5 1 4 8  
時間：8:30 ~ 16:00



### おしくらごう（萩の和船大競漕）

6月の第1日曜日に行われる伝統的な和船競漕です。玉江浦と倉江の各町内を代表する若者たちが和船に乗り組んで競漕する「おしくらごう」のほか、地元の中学生や社会人による和船競漕も行われます。玉江浦の人々が一年を通して準備を行う一大イベントです。



場所：玉江浦河川敷（常盤橋～玉江橋間）

### 天狗拍子

例年10月の下旬に行われる、玉江神社の秋の大祭に奉納される大漁祈願の踊りです。「天狗の舞」と「恵美須舞・大黒舞」の2つの踊りを、いずれも地元の小学生が演じます。



場所：玉江神社、恵比須神社、山口県漁業協同組合玉江浦支店

### いかたっぷりXO醤・じゃこたっぷりXO醤

玉江浦で捕れたイカや小魚を使って作られたXO醤です。地元漁師のご婦人たちが心を込めて手作りしています。山口県漁業協同組合玉江浦支店や道の駅「萩シーマート」「萩往還」で購入できます。



## 玉江の季節暦

	春	夏	秋	冬
自然	鳴き砂	ホタル(6月)	カノコユリ(7月下旬～8月)	
行事	おしくらごう(6月第1日曜日)		玉江神社秋季大祭・天狗拍子(10月下旬)	恵比須祭りの神楽(12月初め)

H31.3現在

編集 玉江浦地区有志  
発行 萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(文化遺産総合活用推進事業)



## 萩まちあるきマップ

# 玉江地区 おたからマップ



萩三角州の西岸に位置する玉江は、山間部の奥玉江と川沿いの玉江浦、河口の山麓に位置する倉江など、複数の集落に分かれています。港のそばに家々が密集し漁業集落の面影を残す玉江浦、昔ながらのホタルの舞う白水川の景色を守り続ける奥玉江、ナツミカン栽培が盛んで農村としての特徴が色濃く残る倉江と、それぞれ異なる文化を持つ集落が、権現様のお祭りや「おしくらごう」といった祭事・伝統行事を通じて互いに交流を深めてきました。玉江の人々が大切に守ってきた景色と伝統を巡ってみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは、萩まちじゅう博物館HPでチェック!!  
www.city.hagi.lg.jp/site/machihaku/



**漁業集落と信仰**

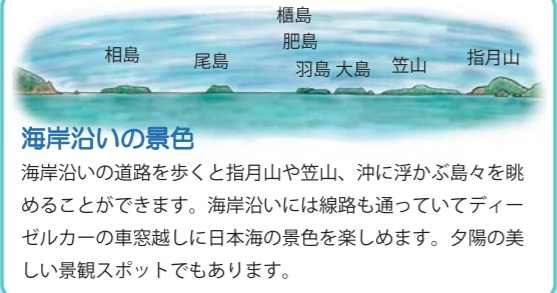
おすすめ  
トレイル1

- 玉江駅
- ①権現様（玉江神社）
- ⑥観音院
- 漁業集落の景色
- ⑩オミセンサマ（倉江神社）
- ⑨恵比須神社
- ⑧弁天様（厳島神社）

**玉江の景色と自然**

おすすめ  
トレイル2

- 玉江駅
- 常盤橋（橋本川と川港）
- ⑥観音院（漁業集落の景色）
- ⑩オミセンサマ（山からの眺め）
- ⑪カノコユリ（7月中旬～8月）
- ⑫倉江浜（タカラガイ）
- ⑬小原浜（鳴き砂\*冬の晴れた日）
- ⑰白水川のホタル（6月）



**海岸沿いの景色**  
海岸沿いの道路を歩くと指月山や笠山、沖に浮かぶ島々を眺めることができます。海岸沿いには線路も通っていてディーゼルカーの車窓越しに日本海の景色を楽しめます。夕陽の美しい景観スポットでもあります。

**⑫⑬砂浜でタカラ探し**  
萩市の西にある倉江浜は人の少ない静かな砂浜です。砂浜を散策すると浜に打ち上げられた様々な色形の貝殻を見つけることができます。中でもタカラガイと呼ばれる貝はまるで宝石のように光沢があつてとても綺麗です。倉江浜からさらに西にある小原浜の砂浜は鳴き砂の砂浜として有名でした。現在でも冬から春にかけて乾いた砂の上を歩くと「クックッ」と音が聞こえるかもしれません。



**⑧弁天様（厳島神社）**  
地元では弁天様と呼ばれています。昔は船が海に出るときには事故が無いように弁天様に祈っていました。毎年6月のお祭りには伝統的な和船競漕「おしくらごう」も行われて玉江浦が賑わいます。



**⑦おしくらごう**  
毎年6月のはじめに伝統的な和船競漕である「おしくらごう」が行われます。かつては4つの青年宿からそれぞれ代表の若い漁師たちが選ばれ、木造の和船に7人で乗り組んで漕ぐ速さを競いました。現在は3町内に分かれて競漕しています。玉江浦の漁師にとって、おしくらごうの乗組員に選ばれることは大変に名誉なことでした。藩政時代から受け継がれた伝統行事であり、現在も玉江浦の人々にとって無くてはならない一大行事です。



**⑥観音院**  
本堂の隣に観音堂が建っています。お堂の本尊の十一面観音は、昔玉江浦の漁師さんが海から引き上げたものと伝えられています。境内にある灯籠は港に入る船の目印になる灯台としても利用されていました。海を一望できるので、昔はここから海の天気や波の高さを確認して漁に出ていました。

**②③④⑤青年宿**  
かつて玉江浦のほとんどの男性は漁船に乗り組んで漁に出ていました。漁船での漁は、乗組員すべてが船の動かし方や漁の方法、海や天候に関する知識をもっていなければなりません。そのため玉江浦の若い漁師は、漁に出る時などを除いて、青年宿と呼ばれる宿泊施設で共に寝泊まりをしつつ、経験豊かな船頭たちから漁に関する技術や知識、礼儀や道徳を教わっていました。かつて玉江浦には上組、中間組、角屋組、下組の4つの青年宿がありました。

青年宿の規則や道徳を定めた「在宿舍の心得」

河口付近では軒と軒を突き合わせて家々が建ち、漁業集落らしい景色を見ることができます。かつては玉江浦と倉江の住民の大半が漁業に携わっていました。

**漁業集落の景色**

**①権現様（玉江神社）**  
毛利輝元の病気を治すため、大江山から前鬼と後鬼を招いたことが始まりとされています。萩城の裏鬼門に当たる方角にあるため、代々の藩主の抛り所となっていました。秋の大祭では大漁祈願の天狗拍子が奉納されます。

**①権現様（玉江神社）**  
明治維新の先覚者月性が法話をを行った

**①9時山直八誕生地**  
第2次幕長戦争や戊辰戦争に参加奇兵隊参謀

**①21荒神様**  
地域の守り神

**白水小学校**  
白水小学校は松林桂月の出身校で、桂月のゆかりの品が保管されています。また学校の伝統として、校内に設けられたホタル飼育小屋で育てたホタルの幼虫を、学校の前を流れる白水川へ毎年放流しています。生徒たちが考えた学校のイメージキャラクター「いずみん(男の子)」と「ひかりん(女の子)」もホタルがモチーフです。

**①7白水小学校**  
白水小学校は松林桂月の出身校で、桂月のゆかりの品が保管されています。また学校の伝統として、校内に設けられたホタル飼育小屋で育てたホタルの幼虫を、学校の前を流れる白水川へ毎年放流しています。生徒たちが考えた学校のイメージキャラクター「いずみん(男の子)」と「ひかりん(女の子)」もホタルがモチーフです。

凡例  
 〇 まあーるバス西回りコース  
 〇 まあーるバス東回りコース  
 〇 まあーるバスバス停  
 P 駐車場  
 P 有料駐車場  
 i 公衆トイレ  
 ● 萩焼窯元（※見学の際は事前に連絡を）

